

施策の柱4 安全・快適、みどりあふれるまち

区の基本姿勢

練馬区は、都市化が急激に進んだため、道路・鉄道などのインフラ整備が著しく遅れています。直近の区民意識意向調査でも、最も力を入れて欲しい施策として、「都市インフラの整備」が1位に選ばれています。都市計画道路の整備等は、完了まで年月を要する事業ですが、関係者の理解を求めながら着実に進めていきます。あわせて、地震や豪雨災害による被害を最小限に抑えるため、地域ごとのリスクに応じた防災力を向上させる取組も欠かせません。また、災害時のエネルギーセキュリティの確保等の観点から、自立分散型エネルギー社会の実現も重要です。

区内の私有地のみどりは、一貫して減少を続けており、既存のみどりを守るだけでなく、新たなみどりを増やす取組が求められます。行政の取組だけで、みどりを守り、増やすことは不可能です。区民とともに、みどりに恵まれた環境を未来へつなぐ取組が必要です。

安全で快適な、みどりあふれるまちの実現を目指し、区民と手を携えながら積極的に取り組んでいきます。

施策の方向性

- ・ 建物の耐震化・不燃化や狭あい道路の拡幅等、災害に強いまちづくりを進める。
- ・ 都市計画道路の整備を着実に進める。
- ・ 大江戸線の延伸、西武新宿線の連続立体交差化を早期に実現する。
- ・ 拠点となる公園や都市計画道路の整備により、みどりのネットワークを形成する。
- ・ 区民との協働により、みどりを守り育てるムーブメントを広げる。
- ・ 自立分散型エネルギー社会の実現に向けた取組を進める。

区の都市計画道路の整備率は約 5 割と、23 区平均の約 6 割を下回っており、特に西部地域は約 3 割と極めて低い状況です。また、23 区では稀な鉄道空白地域が残されているほか、踏切が 28 か所存在し、日常的に交通渋滞が発生しています。

このような課題の解決に向けて、交通の円滑化、災害時の交通確保、みどりの創出等、多様な機能を担う都市計画道路の整備を着実に進めます。また、大江戸線の延伸に向けて、区民や各種団体と一体となった促進活動の展開、沿線のまちづくりを推進するとともに、事業予定者である東京都との実務的な協議を進めます。さらに、西武新宿線（井荻駅～東伏見駅付近）連続立体交差化の早期実現に取り組みます。

練馬のみどりに満足している区民の割合 80%を目指し、みどりのネットワーク形成と区民とともにみどりを守り育てる仕組みづくりを進めます。

みどりのネットワークの拠点となる公園や、軸となる幹線道路を整備します。「武蔵野の面影」をテーマに稲荷山公園を、「水辺空間の創出」をテーマに大泉井頭公園を拡張整備します。みどりを育む基金のリニューアルや、区民による公園の管理運営を進めるなど、みどりを守り育てるムーブメントを広げていきます。

主要な取組

地域の災害リスクに応じた「攻めの防災」

地震や水害等の災害リスクは、地域によって異なります。地域特有の災害リスクを、地域住民と情報共有した上で、防災対策を講じることが有効です。

地域の災害リスクや防災情報をまとめた「地域別防災マップ」を、地域住民と協働で作成します。水害リスクの高い地域をモデルとして、「地域別防災マップ」を活用した訓練を区民とともに実施し、地域の防災力を強化します。老朽木造住宅が密集し、地震発生時の建物倒壊や延焼の危険性が高い地区において、「密集住宅市街地整備促進事業」を進めています。これに次ぐ危険性が懸念される 3 地区程度を、区独自に「(仮称) 防災まちづくり推進地区」として位置付け、狭あい道路の拡幅、ブロック塀の撤去、老朽木造住宅の建替え促進などに集中的に取り組めます。